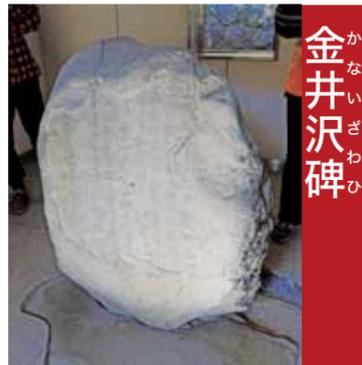


上野三碑から何が分かる？

人々の信仰や、婚姻の習慣、行政制度など古代の実像が見えてくる。



かないざわひ
金井沢碑

726年建碑。碑の文中に9人の人名があり、そのうち4人は女性です。結婚後も実家の氏の名で呼ばれていたこと、子どもたちと共に実家の先祖祭祀に参加していることから、家族のつながりに女性が大きな役割を果たしていたことが伺えます。群馬という地名が表された県内最古の史料でもあります。



たごひ
多胡碑

711年に中央政府からの命令で上野国に14番目に建てた「多胡郡」の記念碑です。それまであった3つの郡を6つの郷に割り、新たに多胡郡を設置したこと、権威付けのため当時の政府首脳の名が刻まれています。『続日本紀』との記述も一致し、古代の地方行政の様子が伺えます。



やまのうえひ
山上碑

681年、放光寺の僧・長利が、母の黒売刀自の供養と自身の顕彰として建立。当時の寺院は現在の大学に近い場で、長利は相当の知識人でした。また、碑文は全て漢字で書かれていますが、日本語の語順で読むことができます。現在につながる日本独自の漢字の使用法が確認できる非常に重要な史料です。

守り伝えられた古代の記憶

大和を中央政府とした古代国家が完成するのが飛鳥・奈良時代。この頃から国家創成の過程を中国にならぬ文字で記録するようになりました。行政区分についても中国を参考にし、ある地方のもっとも大きな区分を国、その下を郡、里と決めました。「金井沢碑」にある上野国※2、群馬郡下、賛郷高田里という住所からは、奈良の飛鳥から400km以上離れた高崎まで中央の統治が及んでいた様子が分かります。

また、「山上碑」を建てた長利は、佐野三家という中央政府と強く結びついた名門の出です。この地域の豪族が当時の先進思想である仏教に帰依したことが分かります。さらに「多胡碑」からは、先進的な渡来系技術が根付いた工業地帯を治めていたのが「羊」と呼ばれる渡来系の人物だったことも推定されます。多くの古代の記録が失われた中、守り伝えられた上野三碑。地方行政制度のあり方、古代豪族の婚姻や氏とのつながり、仏教思想の広がりなど多くのことを伝える、古代東国史の一級史料といえるでしょう。

Registered in UNESCO's "Memory of the World Programme" World-renowned 1,300 year-old ancient stelae

The Yamanoue, Tago, and Kanaizawa stelae that still exist in Takasaki City were registered in UNESCO's "Memory of the World Programme" in 2017.

The three stone stelae built during the Asuka and Nara periods are collectively called The Three Stelae of Kozuke. The culture of building stone monuments featuring text was brought from the Korean Peninsula and China. It can be seen that knowledgeable migrants were involved in regional management and that they were highly cultured at that time. It can be said that this is a first-class historical source of ancient Eastern history that conveys the ideal state of the local administrative system, the marriage of ancient powerful tribes and connections between them, and the spread of Buddhist thought.

こうずけさんび ～上野三碑と多胡郡～ 古代最先端都市の跡。



半径1.5km内に古代の石碑が密集

上野三碑と呼ばれる石碑、その全てが多胡郡に立っています。古代において「文字を刻んだ碑を建てる」ことは最先端の文化事業でした。石碑が密集した多胡郡は、豊かな文化や高度な技術が根付く土地だったのです。

多胡郡(吉井町近辺)の全景と上野三碑

ユネスコ「世界の記憶」に登録 世界が認めた千三百年前の古代碑

高崎市に現存する上野三碑と呼ばれる3つの古代碑が、2017年にユネスコの「世界の記憶」※1に登録されました。

上野三碑は、いずれも「多胡郡(現在の高崎市吉井町近辺)」に所在し、飛鳥・奈良時代に造られました。多胡は渡来人(「胡人」)が多く住んだ土地でした。文字を駆使し、石碑を建てる文化は、飛鳥時代に朝鮮半島や中国からもたらされたもので、渡来人の知識層が地域経営に関わっていたこと、当時の日本の中でも高い文化レベルであったことが伺えます。

日本国内で現存する古代碑・石塔はわずか18例、そのうち3つが高崎市内の半径1.5km以内に位置しています。三碑の集中は、歴史的に極めて特筆されます。このような重要性から、いずれも国の特別史跡に指定されています。

※1 世界遺産、無形文化財に並ぶユネスコ主催の3大遺産事業の一つです。古文書や書物などの歴史的価値のある記憶物を保存、後世に引き継ぐことが目的。ゲーテの直筆文学作品やアンネの日記などが登録されています。

※2 上野国は、現在の群馬県